二之丸跡
静かに無常を語る、のこころ

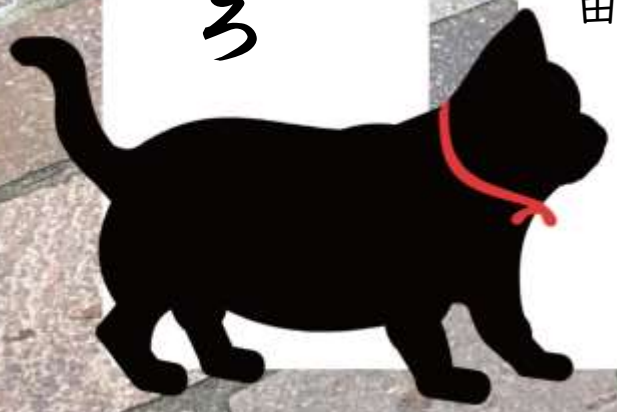
9月24日 逍遥

国道に出たワタシの左手には、二之丸跡に静かに佇む市立美術館、そして県立図書館。逍遥館長さんの話では、幕末、ここ二之丸に居住した久光は、小松らを抜擢して藩論を統一し、公武合体推進のため、過激な薩摩藩士は上意討ちにしたり、薩英戦争後、英国とは接近したり、と、リーダーシップとガバナンスに力を発揮した一方、西郷とは確執も多く、明治天皇の鹿児島行幸時に久光を一度も訪ねなかった西郷に詰問状を出したり、廃藩置県の情報を得た久光が、怒りの余り、二之丸の邸中で花火を上げさせたのだそう。

今日9月24日は、西郷が自刃した日。そんな昔も今も変わらず城山に沈む茜色の落日を背にしながら、真っ赤な彼岸花が夕風に揺れている様に、逍遥館長さんは、混声合唱団時代の一曲「曼珠沙華（ひがんばな）」（北原白秋の詩に山田耕筰が作曲）を、一人で勝手に重ね合わせているようでした。

「GONSHAN GONSHAN 何本か 地には七本 血のやうに 血のやうに」

（でも猫のワタシには赤色は見えないので、そんな無常観を言われてもね？）



次回「二之丸跡の すずの「そこが聞きたい」、のこころ」